

入試を視野に入れた高度な問題で演習を積み、応用力をつけます。

5年生は、来年から本格的に始まる入試対策に向けて準備をする、重要な学年です。「要点」と「確認問題」で基礎力を強固なものにして、「練習問題」でより高度な問題に取り組み、応用力を養います。入試分析に基づいた難度の高い問題にじっくり取り組んで解説を読むことで、着実に力を伸ばせるよう教材を構成しています。

学習例：◎本格的な入試対策に向けて、応用力を養う

**要点**

**読**  
 物語  
 今回  
 しょう  
 さま  
 格を  
 読む  
 こと  
 の要  
 素と  
 して

●あらゆる設問に対応できる  
**読解のコツを解説**

「要点」では、読解のポイントを端的に示し、あらゆる設問に対応できるコツを習得します。例えば、「性格や人物像をとらえる」と言ってもその切り口はさまざま。幅広く使えるテクニックを丁寧に解説します。

場人物の性  
 いて理解す  
 ための一  
 を学習しま

●**性格・人物像とは**●  
 性格・人物像とは、「優しい」「短気」「まじめ」などその人が持つ性質のことです。人物の気持ちは場面によって変化しますが、性格・人物像はそう変わるものではありません。登場人物の性格・人物像を読み取るには、その人物がどのような人間として描かれているかを考えるということです。

性格・人物像を表す言葉を集めてみたよ。ほかにどんなものがあるか、みんなも考えてみてね。

思いやりがある・親切・気が短い・おこりっぽい・わががり・心配性・明るい・陽気・活発・暗い・陰気・おとなしい・内気・わがまま・ずるがしこい など

性格・人物像は、右にあげたような言葉で表す以外に、「相手の立場に立って物事を考えられる人物」「一度決めたことは必ずやりとげる性格」のように、その人の考え方や行動



**授業**  
**ノート**

**読解のテーマ**  
 物語・小説(2) — 登場人物の性格・人物像

●**性格・人物像の読み取り方**●  
 性格・人物像を読み取るには、次のような方法があります。

**登場人物の性格・人物像の読み取り方**  
 (1) 人物の性格・人物像を直接表している言葉から読み取る。  
 (2) 人物の から読み取る。  
 (3) 人物の や から読み取る。  
 (4) 人物の がえがかれているところから読み取る。

**ここが大切!**  
 物語全体を視野に入れて、いろいろな要素から登場人物の 人物像を読み取りましょう。  
 二人以上の人物が登場する場合は、人物どうしにも注目しましょう。

●**基礎を完成させ、入試対策に備える**

「授業ノート」では、物語・随筆・説明文・詩など、あらゆる文章の読解方法のポイントについて、自分の頭で考え、実際に手を動かして書きこむことで、理解を深めて定着させることができます。「要点」で学んだことを、応用できるレベルにまで引き上げます。

**練習**  
**問題**

●**どんな形式の問題でも解ける力をつける**

入試を見据え、記述式・選択式・書き抜きなどの諸形式の問題を、標準レベルから発展レベルまでバランスよく出題。どんな問題でも自信をもって解けるよう練習を重ねます。

**問題**  
 (1) ③について、次の問いに答えなさい。  
 このような様子で話しかけるカズヤはもともとどのような性格なんでしょうか。適切なものを次の中から一つ選び、記号を○で囲みなさい。  
 ア 何でも笑ってごまかそうとする、いかげんな性格。  
 イ 笑顔とは対照的に、すぐにはらを立てる短気な性格。  
 ウ 細かいことにおこったりしない、陽気で明るい性格。  
 エ 作り笑いでみんなをなごませる、気配りのできる性格。

**問題**  
 (2) (1)のような性格のカズヤは、サッカーチームではどのような存在だったのですか。文中から十一文字で書きぬきなさい。

**問題**  
 (4) ④、勇毅がサッカーのことをあまり話したがらないのはなぜですか。その理由を、勇毅の気持ちをあきらかにして七十文字以内で書きなさい。

●**記述問題に自信がもてる**

苦手意識をもちやすい記述問題ですが、難関中学の入試では避けて通ることはできません。設問で聞かれていることは何か、答えに必要な要素は何かを論理的に考え、解答をまとめることを学習します。



答えと  
考え方

**考え方**  
 問題文の最後の部分で、サッカーチームに入ることをすすめられた勇毅は、「……サッカーなんて、もうやらねえよ」と答えています。この言葉を聞いた「おれ」は勇毅について次のように思っています。  
 せつかつかんだ強豪チームでの準レギュラーの座。それをあきらめて、勇毅はこの札幌へ来たのだった。今後の活躍を期待され、さあこれからだというときに、勇毅のお父さんは転職をすることになったのだ。(68～71行目)  
 強豪チームに所属し、試合にも出ていたのに、チームをやらなければならなかったのですから、勇毅はくやしくて仕方がなかったことでしょう。そんなできごとがあったため勇毅はもう二度とサッカーなどやらないと心に決めていたのですね。

**丸つけの仕方**  
 答えのポイントは次のとおりだよ。自分の書いた答えの中に、次のポイントが書かれていたら、となりに線を引いて印をつけておこう。すべて書いていたら○だよ。

「強豪チームで」「準レギュラーの座をつかんだ」を書いた。  
 「強豪チーム」は、「全国最強のチーム」「全国大会のベスト8のチーム」などでもいいよ。  
 「準レギュラーの座をつかんだ」は、「今後の活躍を期待されていた」「試合にも出ていた」「メンバー入りしていた」などでもいいよ。「さあこれから」というときに「だけ」は不十分だよ。

「父の転職で」を書いた。

「チームをはなれなければならない」を書いた。  
 「強豪チームで活躍すること(を)あきらめなければならなくなった」などでもいいよ。  
 「引越すことになった」「札幌にきた」だけでは不十分だよ。

「くやしい」を書いた。

文末を「〜から」「〜ため」にできた。

●**記述問題の採点基準をつかむ**

すべての記述問題に「丸つけの仕方」をご用意。解答に必要な要素を分解して示します。記述力を上げるには、模範解答と自分の答えを見比べて、過不足を確認することが大切です。自分で丸付けをする習慣をつけることで、記述問題で書くべきことが明確になり、得点力につながります。

**丸つけの仕方**  
 答えのポイントは次のとおりだよ。自分の書いた答えの中に、次のポイントが書かれていたら、となりに線を引いて印をつけておこう。すべて書いていたら○だよ。

「強豪チームで」「準レギュラーの座をつかんだ」を書いた。  
 「強豪チーム」は、「全国最強のチーム」「全国大会のベスト8のチーム」などでもいいよ。  
 「準レギュラーの座をつかんだ」は、「今後の活躍を期待されていた」「試合にも出ていた」「メンバー入りしていた」などでもいいよ。「さあこれから」というときに「だけ」は不十分だよ。

「父の転職で」を書いた。

「チームをはなれなければならない」を書いた。  
 「強豪チームで活躍すること(を)あきらめなければならなくなった」などでもいいよ。  
 「引越すことになった」「札幌にきた」だけでは不十分だよ。

「くやしい」を書いた。

文末を「〜から」「〜ため」にできた。